

テーマに迫るための本時の手立て

主人公の気持ちの変化や葛藤を捉えさせるために、ワークシートを活用して考える時間を確保するようにする。中心発問では、話し合いに深まりを持たせるために、全体で意見を出し合う時間を設ける。その際、色の異なる旗を用意し、自分の心情がどれに近いかな分けることにより、視覚的にも捉えられる手立てとする。

第5学年2組 道徳学習指導案

指導者 串田 恵美

- 1 主題名 思いやりの心〔2－（2） 親切〕
- 2 資料名 父の言葉―黒柳徹子（文溪堂「5年生の道徳」）
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

高学年の内容項目2－（2）は、「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする」とある。この時期の児童には、相手の立場に立って考え、どのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。集団生活の中で相手を思いやることは、人間関係を豊かにし、温かくするためには欠かせない。思いやりとは、哀れみや同情、おせっかいなどではなく、他人の困苦を自分のこととして受け止め、その悲しみや苦しみを理解し、支えになろうとする心情である。そこで、多様な他者とふれあい、助け合って何かをするような体験を通して、思いやりの心をもつことの大切さに気付かせていきたい。そこで、本校の研究テーマにつながる、豊かな心が育まれた児童の姿を「人間関係の深さの違いや意見の相違にとらわれることなく、相手の立場に立って親切にしようとする児童」とした。

(2) 児童の実態と指導の方向

本学級の児童は、明るく穏やかな児童が多い。教師の話にも耳を傾け、素直に聞き入れることができる。係の仕事や当番活動、学習におけるグループ活動では男女問わず協力し合ったりして行っているものの、誰かが困っているときに手を差し伸べるのは仲良しの友達の場合が多い。また、教師に言われてから行動に移す児童もいる。

(5月29日 35人調べ)

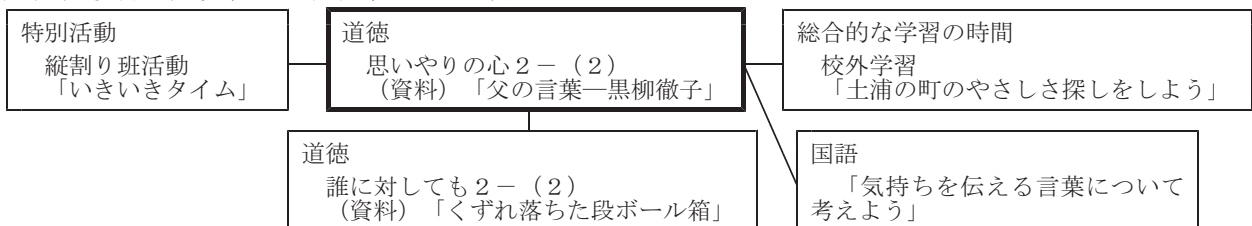
1 困っている人に親切にした経験はありますか。 (親切にした相手・・・複数回答)	ある 27人	ない 8人
・友達 12人 ・下級生 11人 ・知らない人 7人 ・身内 5人		
2 困っている人に親切にできず、後悔した経験はありますか。 (あると答えた児童の回答)	ある 8人	ない 27人
・席を譲れなかった ・女子だから声をかけなかった ・恥ずかしくて無視してしまった ・友達だけ親切にできなかった経験がある		
3 親切にするとき、相手の気持ちを考えて行動していますか。	はい 28人	いいえ 7人

アンケートの結果を見ると、質問項目1から親切にした経験があると答えた児童は多い。しかし、知らない人と答えた児童は少なく、誰に対しても同じように振る舞える可能性は低い。質問項目2では、あると答えた児童は少ないものの、声をかけられなかった相手が知らない人や異性という回答が多く、行動に移す前に躊躇してしまうという実態がみえてきた。質問項目3では、はいと答えた児童は多いが、児童の日常生活をみていると、客観的に判断して行動に移しているとは考えがたい。

資料「父の言葉」は、黒柳徹子さんが幼少時代、同じ病気に苦しんだ子にどのように接すればよいか悩んだ様子が鮮明に描かれている。女の子の姿を見ると反射的に隠れてしまう主人公に、父は「行ってお話ししなさい。」という言葉かける。その時の父の言葉を支えとし、ボランティアやユニセフの活動を行っているという話である。

そこで、本資料を通して、どのように接すればよいか悩む主人公に共感させることに加え、判断の根拠を問う発問を工夫しながら相手のことを親身になって考えることの大切さに気付かせたい。そして、状況判断力が育ってくるこの時期に、相手が何を望んでいるのか、相手の支えになるとはどのようなことかを十分に考え、思いやりをもって親切にすることができるようにしたい。

(3) 他教科・他領域や日常指導などとの関連



児童は、登校班や運動会など様々な場面で下級生に親切に接している。これから始まる縦割り班活動を通して、さらにその気持ちを高めるとともに、総合的な学習の時間で地域に目を向け、人々が様々な場面で助け合っていることや協力していることに気付かせたい。そして、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心と親切な行為を児童が広げていけるようにしたい。

#### 4 本時の学習


##### (1) ねらい

だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

##### (2) 資料・準備物

掲示用発問短冊，人物絵，ワークシート，写真

##### (3) 展開 ( テーマに迫るための主な活動場面 は中心発問)

配時	主な活動と発問	予想される児童の反応	教師の支援・評価
5分	1 困っている人に会った時の経験を発表する。 ○ 困っている人に会ったとき、どうしましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から声をかけた。</li> <li>何もできなかった。</li> <li>すぐに手を貸した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困っている人に、どんな気持ちでどのように行動していたかを発表させることで価値の方向付けをする。</li> </ul>
32分	2 資料「父の言葉—黒柳徹子」を読んで話し合う。 ○ 松葉杖の女の子を見て隠れた「わたし」は、どんな気持ちでしたか。   ○父から「そんなにかわいそうだと思うなら、かくないで、行ってお話しなさい。」と言われたとき、「わたし」はどんなことを考えましたか。  ◎この時はどうしても勇気が出なかったのに、今になって行動できるようになったのは「わたし」の中にどんな思いがあったからだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>女の子がかわいそう。</li> <li>自分だけよくなった姿を見られたくない。</li> <li>自分だけ元気になって女の子に悪い。</li> <li>勇気を出して声をかけてみようかな。</li> <li>そんなこと言われたって…どうしてよいかわからない。</li> <li>自分から声をかけるのは悪くてできない。</li> <li>自分が間違っていたのかな。</li> <li>自分がしていたことが間違っていたのかもしれない。</li> <li>親切とは相手の気持ちを考えることだ。</li> <li>隠れたりしたら女の子は嫌な気持ちだっただろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病気が治ったときの「わたし」の気持ちを考えながら、女の子と出会った時の心情に迫れるようにする。</li> <li>「わたし」なりに相手の立場に立って、精一杯考えていることを確認する。</li> <li>ワークシートに書く活動を取り入れることで自分の考えを深められるようにしたい。</li> <li>意見を分類して板書し、考えを深める手助けとする。</li> <li>三色の旗を使い、どの心情に近いのかを表現させることで児童の心情の変化や葛藤を知る手立てとする。</li> <li>父の思いや女の子の気持ちにふれることで、女の子のために行動していたつもりでも、自分本位に行動していたことに気付かせたい。</li> <li>このときの父の言葉から学んだことが黒柳さんの人生の大きな分岐点になっていることを確認する。</li> <li>本当の思いやりとは、相手のことを親身になって考えた上で行動することであることを気付かせたい。</li> </ul>
5分	3 今日の授業をふり返る。 ○今日の授業を通して、感じたことや考えたことを書きましよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の気持ちを考えて行動することが大切だと思った。</li> <li>これからは相手の気持ちを考えて親切にできるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を通して考えたことや感じたことをワークシートに書かせることで価値の定着を図りたい。</li> <li>◎ 相手の立場に立って親切にしようとする考えを深めたか。(観察・ワークシート)</li> </ul>
3分	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>教師自身の体験を紹介し、実践への意欲につなげたい。</li> </ul>